

題目 : 2021 年関東支部総会+公開シンポジウム「スライド作成における色彩とデザイン」
(オンライン開催)

Title : Report of the Kanto Branch General Assembly and the Public Symposium

氏名 : 中島 由貴 (支部幹事 / 女子美術大学大学院)

<総会>

日本色彩学会 関東支部は、COVID-19の感染拡大の状況を鑑みて、オンラインにて2021年度総会を開催いたしました。委任状を含め39名の方々にご出席いただき、全議案が可決、承認されましたので、以下にその概要を示します。

- ・ 開催日時 : 2021年4月10日 (土) 13:00~13:35
- ・ 参加形態 : Web受信による個別参加 (Zoom利用)
- ・ 参加者 : 日本色彩学会関東支部正会員37名(委任状による出席7名を含む)、名誉会員2名。
- ・ 議題 : 第一号議案 2020年度事業報告承認の件
第二号議案 2020年度収支決算報告承認の件
第三号議案 2021年度事業計画承認の件
第四号議案 2021年度収支予算案承認の件
第五号議案 2021年度役員改選について

開会の辞

定刻に至り、司会の名取和幸幹事が開会を宣言し、支部規定第 18 条に基づき、東吉彦支部長が議長に選任された。東議長より参加者への謝辞のあと、Web 開催に至った経緯が説明された。

第一号議案 2020 年度事業報告承認の審議

岩井彌幹事より、2020 年度事業報告について、総会資料に基づき説明がなされた。審議ならびに Web 投票による採決の結果、過半数の賛成が得られたため、第一号議案を承認可決した。

第二号議案 2020 年度収支決算報告承認の審議

遠山令子幹事より、2020 年度収支決算報告について、総会資料に基づいて説明がなされた。次いで、小松原仁監事により監査結果が読み上げられ、事業報告、収支決算報告は現在の業務および財産状況においていずれも適法、適正であることを認める旨が報告された。審議な



らびに Web 投票による採決の結果、過半数の賛成が得られたことから、第二号議案を承認可決した。

第三号議案 2021 年度事業計画承認の審議

岩井幹事より、2021 年度事業計画について、総会資料に基づき説明がなされた。審議ならびに Web 投票による採決の結果、過半数の賛成により第三号議案を承認可決した。

第四号議案 2021 年度収支予算案承認の審議

遠山幹事より、2021 年度収支予算案について、総会資料に基づき説明がなされた。審議ならびに Web 投票による採決の結果、過半数の賛成により第四号議案を承認可決した。

第五号議案 2021 年度役員改選についての審議

岩井幹事より、2021 年度役員改選および体制について、総会資料に基づき報告がなされた。審議ならびに Web 投票による採決の結果、過半数の賛成により第五号議案を承認可決した。

閉会の辞

以上をもって本総会における全議案の審議が終了し、これをもって東支部長が議長を退任し、司会を務めた名取幹事があいさつを行い、閉会を宣言した。

＜公開シンポジウムスライド作成における色彩とデザイン＞

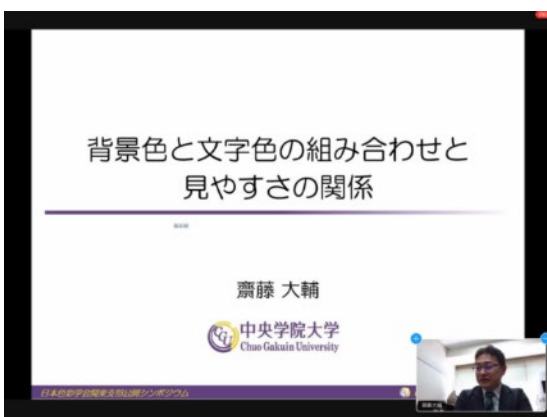
総会に続き、14時から17時にかけて関東支部によるオンライン公開シンポジウム「スライド作成における色彩とデザイン」を開催いたしました。おかげさまで79名もの方々にご参加いただき、盛会のうちに終了いたしました。以下にその概要を示します。

昨今、COVID-19の感染拡大に伴いオンラインでの会議や授業が急激に増加し、以前にも増して見やすいスライド資料が求められるようになってきました。スライド作成に関するhow-to本やインターネット記事の多さからも、その注目度がわかります。そこで、本シンポジウムでは、「見やすいスライド」を色彩学会ならではの視点から議論し、意見を集約することを目的として、色彩、デザイン、心理学などスライド作成に関係の深い各分野の先生方をお招きしご講演いただきました。

「背景色と文字色の組み合わせと見やすさの関係」

齋藤大輔 先生（中央学院大学）

齋藤先生は、背景色と文字色の組み合わせと見やすさの関係をご研究されており、本講演では視認性（探しているときの発見のしやすさ）と可読性（文字や数字の読みやすさ）に関する主観評価実験、眼球運動解析の概要、およびその結果を詳しく解説いただきました。コントラストが高い文字色と背景色を組み合わせ、背景により輝度の高い色を選択すると読みやすさが向上すること、これらの結果がスライド作成にも応用できるとの可能性を示されていました。

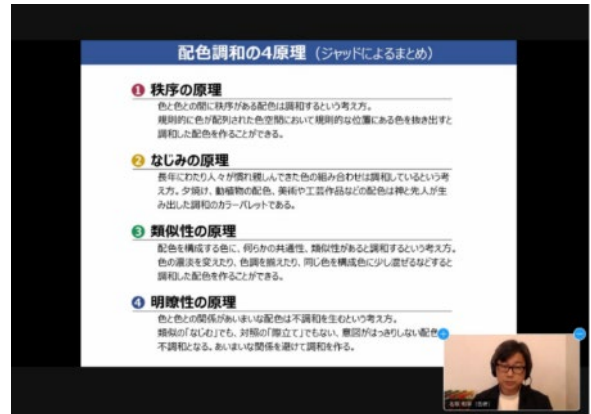


「ゲシュタルト心理学からのデザインヒント」

名取和幸 先生（日本色彩研究所）

名取先生は学生時代にゲシュタルト心理学をご研究されていたとのことで、ゲシュタルト心理学の概要には

じまり、デザインのヒントに至るまでを詳しく解説いただきました。セクション間のスペース、フォント装飾による強調、囲みなど私たちが普段何気なく使っているものが、実はゲシュタルトの要因に当てはまるというのは驚きでした。スライド作成にあたっては準備（内容の構造化）が重要であり、「鳥と虫と魚の目」でスライドを作るという解説がとても印象に残っています。



「カラーユニバーサルデザイン」

市原恭代 先生（工学院大学）

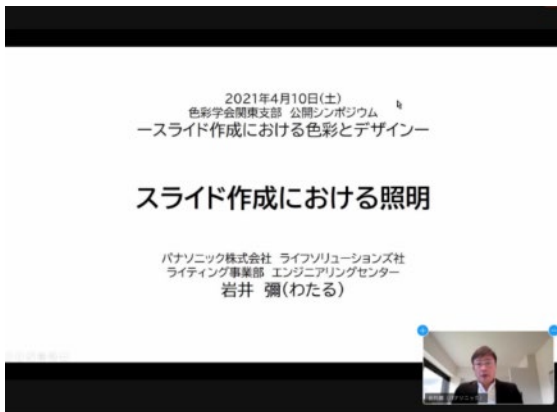
市原先生からは、カラーユニバーサルデザインの観点から、色覚とカラーユニバーサルデザイン、色誤認、色の持つ機能について詳しく解説いただきました。アメリカ合衆国の州別地図を例にしたP型（1型2色覚）向けの配色シミュレーションは、とても貴重な資料で、スライド配色を考える上でも参考にすべき資料だと感じました。オンラインでは、聴き手の表情や様子がわからないまま講演することも多く、だからこそ、すべての色覚で誤認なく認識できる配色が重要であることを改めて認識しました。



「スライド作成における照明」

岩井 彌 先生 (パナソニック株式会社)

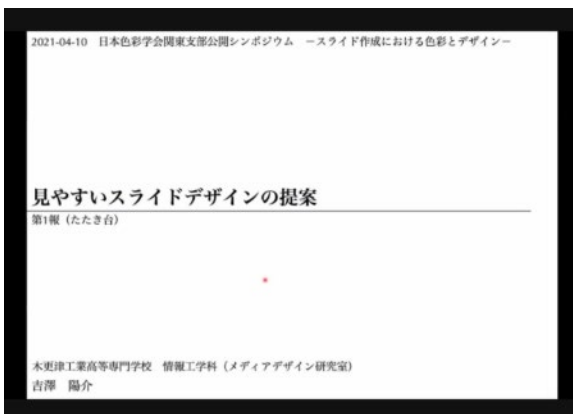
岩井先生からは「スライド作成における照明」と題して、スライドに掲載する画像の撮影環境、スライドを表示する際のモニターやプロジェクターの性能の重要性を解説いただきました。講演の途中で、照明による色の見え方の変化に関するデモをオンラインで実施いただき、目視とモニター越しの差も含めて実体験としてご提示いただきました。また、プレゼンテーションがプロジェクター投影の場合はスライドのコントラストを上げる必要がありますが、オンラインの場合はそこまで意識する必要がないなど、講演環境によっても意識する要素が異なってくるという点も大変有意義な情報でした。



「見やすいスライドデザインの提案」

吉澤陽介 先生 (木更津工業高等専門学校)

吉澤先生からは「見やすいスライドデザインの提案」と題して、スライドデザインの種類 (目的, 発表方法, 用途), 要素と見せ方 (文字, 図表) というセクションにわけてご講演いただきました。見やすいスライドを作成するには、1 ページあたりの情報量が鍵になり、ご自身の経験から文字色やフォントの種類も極力減らす方が



良いと示されていました。上記に加え、今回のシンポジウムの4テーマ (背景色・文字色, ゲシュタルト心理学, カラーユニバーサルデザイン, 演色性・照明) を加味することで、さらに良いスライドになるのではとのご意見をいただきました。

総合討論

総合討論では、早稲田大学・若田先生司会のもと活発な議論がなされました。本シンポジウムの内容は、6月26~27日に開催される第52回全国大会の企画セッションとも連動しており、実際の課題について各先生方からアドバイスやヒントがいただけました。

スライド作成においてもカラーユニバーサルデザインや視覚環境に配慮した色彩設計が必要であり、本シンポジウムを契機として日本色彩学会ならではの意見集約とそれらに基づく指針の発信が待たれます。



<あとがき>

本年もオンライン開催にあたり、ご参加の皆さまには多くのご支援とご協力を賜りました。総会、公開シンポジウムともに滞りなく進み、無事に閉会を迎えることができました。ここに感謝申し上げます。

以上